

「和やか鯨城」 2026 年の干支(午)造り

毎年恒例となりました、瑞穂鯨城会「趣味の作品展」に参加して頂いている「和やか鯨城」の干支づくりが、9月19日より「在宅サービスセンター」にて4回に分け37名の方が参加予定です。

細やかな色付けに集中して製作されていました。

皆様の個性ある作品の出来上がりが「趣味の作品展」で見せて頂けるのが楽しみです。



完成作品

馬産地としての南部地方

岩手県は、古くから馬産地として知られています。16世紀後半に馬耕の技術が入ってくると、馬を家族の一員として大切にする気持ちから、人と馬が一つ屋根の下で暮らすこの地域独特の形をした民家「南部曲まがり家や」が生まれました。この様に培われてきた愛馬精神より、「馬」にちなんだ端午の節句（5月に5日）には、農繁期中唯一の休日として、仕事をせず農耕に疲れた愛馬を癒やし、無病息災を祈ることを目的に、馬の守り神である「蒼前神社」や「駒形神社」へお参りするようになりました。それが慣行化され「お蒼前参り」として定着していきました。このお蒼前祭りの際に、小荷駄装束（こにだしょうぞく）を着せた馬を引くのが流行し、チャグチャグ馬コの原型が芽生えたとされています。

※1930年に馬好きで知られる秩父宮殿下がご来県された際に、滝沢市の「鬼越蒼神社」参拝後、列を成して盛岡八幡宮の神前馬場で馬ぞろいをお見せしたところ大変評判となり、これが始まりとなりました。

